

事務事業名		水道施設整備事業			☒ 実施計画登載事業		☒ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	01:潤いに満ちた快適な都市環境の創造			事業期間		予算科目						
	施策名	02:良好な生活空間の創造					会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	02:上水道・簡易水道の整備					水道	01	01	02			
根拠法令		大船渡市水道事業の設置等に関する条例											
所属	部課名	水道事業所											
	係名	工務給水係	電話内線	0192-27-3111 176									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画(※期間限定複数年度のみ)						
本事業は、未給水地域の解消及び高台等の水圧不足対策を目的に、水道事業経営変更認可(平成14年3月)を受け、水道施設(浄水場1箇所、配水池及び導送配水管)の新設事業を実施する。 主な事業内容は、川原ポンプ場、川原配水池(15年度完成)、冷清水ポンプ場、野尻配水池(16年度完成)、第4浄水場敷地造成、配水池(20年度完成)、第5水源電気室(21年度完成)の建設及び導・送・配水管の新設工事(14～27年度)である。 事業費は、工事請負費、測量・設計委託料、用地・補償費等である。							総 投 入 量 (千 円)	事 業 費 内 訳	国庫支出金				
									都道府県支出金				
									地方債		4,469,300		
									その他		1,407,444		
									一般財源		360,000		
									事業費計(A)		6,236,744		
人 件 費	正規職員従事人数		5										
	延べ業務時間		55,500										
	人件費計(B)		222,000										
	トータルコスト(A)+(B)		6,458,744										

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
導配水管布設工事 5件、水道施設・整備等工事 1件 調査設計業務委託 1件		ア 配水管等新設延長 m	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ 水道施設の新設箇所数 箇所	
配水管布設工事 5件、調査設計業務委託 2件		ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
未給水地域 水圧不足地区		名称	
		単位	
		カ 未給水地域人口 人	
		キ 水圧不足地区数 箇所	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
未給水地域及び水圧不足地区の解消を図る。		名称	
		単位	
		サ 未給水地域の解消数 箇所	
		シ 水圧不足地区の解消数 箇所	
		ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
安全な水が安定して供給される。			

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円	147,000	121,600	48,100	302,100	161,800	21,700	
		その他	千 円	22,300	29,306	7,614	101,700	47,864		
		一般財源	千 円	10,000	20,000	20,000	30,000	31,076	24,251	
	事業費計 (A)		千 円	179,300	170,906	75,714	433,800	240,740	45,951	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時 間	3,664	3,626	3,200	1,300	3,200	3,200	
		人件費計 (B)	千 円	14,656	14,504	12,800	5,200	12,800	12,800	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	193,956	185,410	88,514	439,000	253,540	58,751
⑤活動指標			ア	m	3,369	3,257	590	957	927	982
			イ	箇所	0	0	0	1	1	1
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	2,155	2,139	2,123	2,107	2106	1535
			キ	箇所	5	5	4	4	4	4
			ク							
⑦成果指標			サ	箇所	0	0	0	0	0	0
			シ	箇所	1	1	1	0	0	1
			ス							

事務事業ID	0318	事務事業名	水道施設整備事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和29年4月、上水道供用開始以来拡張を重ね、平成2年5月、現給水区域に拡張した事業認可を得た。その後、人口動向や水道事業を取り巻く情勢の変化などにより修正を加え、平成14年3月に変更認可を受け、現在継続して事業を実施している。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

- ①水道施設整備の実施とともに未給水地区は減少しているが、給水工事に多額の費用を要する場合もあり、上水道加入に時間を要している。
- ②上水道加入後には水道使用料が発生することから、引き続き自家水道を利用したり上水道を中止する世帯が多く、水道使用水量が伸びない。
- ③近年は、水道利用者の節水意識が高まり、全体的に使用水量が減少傾向にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ①新規給水管工事において、配水管が近くにない場合、個人の費用負担が大きくなるので、住民から配水管網の整備と給水管工事に対する助成の要望がある。
- ②高台等の水圧不足地区の住民から、水圧改善の要望がある。

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] 水道施設の整備を実施することにより、市民に安全な水が安定して供給され、その結果、快適な都市環境の向上が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] 水道は公営事業であり、経済性とともに住民福祉の増進に努めなければならないことから妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 平成14年に変更認可を受け、適切な長期計画を立案し、実施している。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] 未給水地域及び水圧不足地区の解消には多額の投資を要することから、計画的な整備が不可欠である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 未給水地域及び水圧不足地区の解消ができない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 現状では他の手段は考えられない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 施設整備後の維持管理を含め適正な工法を選定しており、これ以上の事業費削減は困難である。また、事業費を削減した場合は、未給水地域及び水圧不足地区の解消に一層の時間を要する。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] これ以上の人件費(監督員)の削減は、不可能である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 最終的には水道料金に転嫁されており、適正である。

事務事業ID	0318	事務事業名	水道施設整備事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 未給水地域の解消は、その地域全体での解消は困難だが、部分的に解消成果が出ている。また、他工事と同時施工が可能な工事では、コスト縮減をすることができた。 未給水地域及び水圧不足地区の解消には多額の投資を要することから、計画的な整備が不可欠である。																			
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																															
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																															
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☐ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 水道事業の健全な経営を維持しながら、未給水地域及び水圧不足地区の解消のため、今後も年次的、計画的に事業を実施する。 東日本大震災被災箇所の復旧を最優先としながら、順次新設事業を進める。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持	事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☐ 現状維持																													
事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																																	
		コスト																															
		削減	維持	増加																													
成果	向上		●																														
	維持			×																													
	低下		×	×																													
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 水道使用量が減少し、料金収入が伸び悩みとなっていることから、今後の経営収支に注視するとともに、水需要の動向及び地域住民の意向などを考慮して、事業を計画的に実施する必要がある。 東日本大震災による被災施設の復旧を最優先とし、財源との調整を図りながら今後の新設を進める。 鷹生地区の整備計画の後年度への繰り延べが生じる見込みである。																																	

(職名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	水道事業所長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

未給水地域及び水圧不足地区の解消には、多額の投資を要することから、計画的な整備が不可欠である。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☐ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |

(上記方向性に対する具体的な内容)

水道事業の健全な経営を維持しながら、未給水地域及び水圧不足地区の解消のため、今後も年次的、計画的に事業を実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		●	
	維持			×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項